



志木二中だより

～気持ち良い あいさつ溢れる 志木二中～

令和3年度1月号
令和4年1月11日(火)
志木市立志木第二中学校
志木市館1-3-1
TEL:048-473-2379

新しい年の始まりに

校長 本 荘 真

明けましておめでとうございます。旧年中はたいへんお世話になりました。本年もよろしく願いいたします。

さて、年が明け3年生にとっては受験本番という時期となりました。毎年思うのは「どうか体調管理をしっかりと、本番でこれまでのがんばりを100%発揮してほしい」ということです。それぞれが第一志望校に合格し、晴れやかな気持ちで卒業し、次のステージで活躍してくれることを祈っています。ただ、こうも思うのです。「長い人生、ここですべてが決まるわけではない、もし思うようにならなくても、進むことになった場所があなたに最適な場所だと。そうなるようにがんばれ」と。



『挫折が人を強くする』という言葉があります。本当にすべてがそうかはわかりません。その挫折の程度にもよると思います。中高大と受験でもなんでも自分の思った通りとなり、社会に出た時に「こんなはずではなかった」「なんでうまくいかないのだろう」と心が折れてしまうケースがあるようです。親の庇護がなくなり戸惑ったりもするようです。挫折でなくても多少の失敗経験は若いうちに積んで、「打たれ強さ」を身に付けたり「失敗から学ぶ」ことをしておく必要はあります。人間関係でも然り「傷ついた他人の痛みがわかる」のも大切なことです。己に自信があるのは大いに結構ですが、それが過信になり傲慢になると誰もそばにいなくなってしまいます。そんな大人になって欲しくはありません。

私自身のことを思い返すと、高校受験では第一志望校不合格でした。その時は落胆しました。父の仕事の都合で家族が関西に引っ越し、東京で寮生活をすることになりました。最初は嫌でしたが、結果的には三年間で鍛えられました。そして、この時の部活の仲間は財産です。今もつきあいが続いています。違う学校に合格していたら・・・という事は誰にもわからないことです。挫折した、失敗したと感じた時に、現状をただ悲観せず、どう気持ちを切り替えていけるか、そこが肝心だと思うのです。

新型コロナウイルス感染症が世の中に蔓延して、もうすぐ2年となります。この時代を生きている我々はある意味『挫折』を体験しているのではと思います。ずいぶんと我慢を強いられています。「コロナ禍がなければ今どうだったのだろう」ではなく、この状況下でさらにどう工夫して生活をしていこうか、と考えた新年の晴れた朝でした。